



令和 6 年 7 月 1 日
目黒区立田道保育園長

7月の園だより

さわやかな初夏を迎える季節になりました。園庭の木々の緑は一雨ごとに深まり、稲や野菜が順調に生長しています。子どもたちが育てているナスとキュウリが大きく実り、収穫の時期を迎えました。

3歳児クラスの子どもたちがナスをハサミで切って収穫しました。子どもたちは採れたてのナスを手にとるとその色、つや、匂いを感じ「わぁ」と声を上げ、嬉しそうにしています。子どもたちは調理室に運び「おいしく調理してください」と収穫物を渡し、おじぎをしてお願いをしていました。給食時にクラスの前を通りかかると「調理さんに作ってもらったからいっしょに食べよう」と声をかけてきました。一口食べて「おいしい」と声をかけるといつもは苦手になっている子どもも一口、食べていました。友達の食べる様子をじーっと見てさらに取り分けたナスを口に運ぶ姿も見られました。自分たちで育てたナスは美味しかったようで笑顔が見られ、嬉しく感じました。保育園では保育士だけでなく、他職種とも関わりを持ちながら生活しています。食育活動では土作りは用務職員と行き、育てた野菜は子どもたちが栄養士に相談して調理法を考え、調理師が調理して、時には子どもたちの目の前で調理して提供します。子どもたちには、色々な職種の職員との関わりと温かな見守りの中で園生活を楽しくしてもらいたいと思っています。今月はプール、水遊びが始まります。看護師が水質管理やプールの監視を行い、夏の遊びを安全に十分に楽しくしてもらいたいです。

今月の予定

なつまつり（3・4・5歳） 七夕集会（3・4・5歳） プール開き
※中旬 身体計測・避難訓練



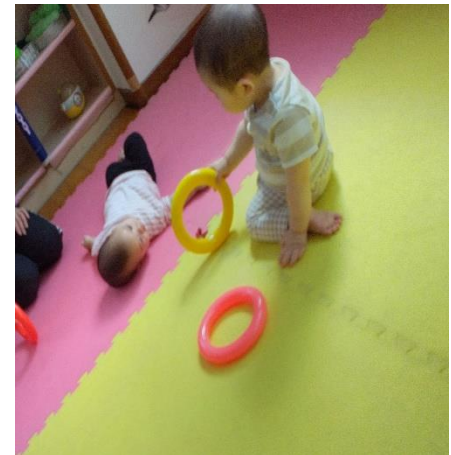
乳児クラスの楽しいやりとり



「だいじょうぶ」

めだか組（0歳クラス）

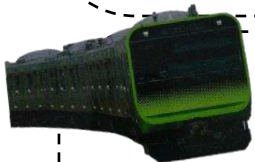
保育園の生活にも慣れ、子どもたちはそれぞれ好きな玩具に触れたり、保育士とふれあい遊びをして楽しんでいます。そんな中、徐々に友達にも興味関心が芽生えています。ミルクの時間が近づき、お腹が空いて泣き始めた子がいました。保育士が「〇〇くん、お腹空いたね」と声をかけると、側にいた友達が玩具を持って「ん、ん」と差し出しています。保育士と目が合い、「おもちゃ持ってきてくれたの？」と聞くと「お～」と一言。泣いていた子も玩具に気づき、ニコッと笑顔になりました。互いの笑顔を見て、さらに嬉しそうに笑い合っている、そんな微笑ましい瞬間でした。



「でんでんでんしゃ」

あひる組（1歳児クラス）

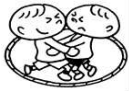
“でんでんでんしゃ”という手遊びをしていた時のことです。近くにいた友達が「これ」と絵本の“山手線”の写真を指差しています。「でんでんでんでん…山手線、がたんごとん」と写真に合わせて、歌を替えてみました。すると、それが面白かったようで「(つぎは)ちんかんちゃん」と周りにいた子どもたちからもリクエストが飛んできます。すると突然「シェンシェー」「デンシャキタヨ」と言っています。保育士「えっでんしゃ、どこに来たの」と尋ねると「ココ」と“京浜東北線”の写真を指差しています。次のリクエストを“電車が来たよ”というユニークな誘い方で表現していました。遊びの中から生まれる子どもたちの豊かな表現を、保育士も一緒に楽しみながら関わっています。



「動かないダンゴムシ」

2歳児クラス（らっこ組）

園庭で見つけたダンゴムシを洗面器の中に入れて観察。“おなか、すいているから”と葉っぱを入れたり、桑の実を“ぶどうだよ”と入れたりしています。丸くなって中々動かないダンゴムシを数人でじっと見ていたので「どうしたんだろうね」と声をかけると「つかれちゃったんじゃない」と一人の子が答えていました。すると周りで見っていた子も次々と「つかれたの」と口にしています。「そうか、疲れて休憩しているんだね」と言いながら皆で動きだすのをじっと待ちました。自分の普段の生活をダンゴムシに当てはめていて、親しみをもった気持ちを感じられる、何とも可愛いつぶやきでした。



6月場所開幕～すもうの取り組み～



田道保育園では平成2年から異年齢保育の活動の一つとしてすもうを始めました。

6月と2月は天候等で戸外に出ることが少ない時期でもあるため、すもう月間としています。

3歳児クラス（ペンギン部屋）

2歳児クラスの頃から相撲にあこがれていたペンギン組。遊具の動物の人形を使って「トントン相撲」をしたり、保育士とホールで「おすもうごっこ」を沢山楽しんできました。6月になり、大きな土俵で初めての取り組みです。お相撲座りやまわしの作り方を知ると、毎回かっこよく見せてくれて、やる気に満ちた表情で自分の名前が呼ばれるのを待っています。保育士対子ども3人の取り組みでは友達と一緒に勝ちたいという気持ちで「頑張ろうね」と意気、ドキドキしながらも土俵の上に上がったりしています。お昼ご飯の時には「いっぱい食べないと強くないんだよ」「こんなに食べたから強いよ」と元気いっぱい食べているペンギン部屋です。



4歳児クラス（いるか部屋）

いるか部屋の相撲は大人対子ども2～3人の取り組みから始まりました。繰り返し楽しんでいく中で「見合って見合って」で相手の目を見る、「のこった」でまわしを持って押す姿にどんどん迫力が出てきました。後半は子ども同士でも取り組むようになり、少し照れながらも嬉しそうに土俵に上がったり、「絶対勝つぞ」と声を出したりと様々な姿がありました。そんなある日、2回連続で負けてしまった子が「もうやらない」と泣いてしまいました。悔しかったのが、伝わってきます。しかし相撲が終わり部屋に戻ると「もっとご飯食べて、今度は勝つ」と言っていました。泣きながらも他の友達の取り組みを見るうちに気持ちを前向きに切り替えていたようです。勝った喜びもあれば、負けた悔しさもあり様々な感情を味わう子どもたち一人ひとりの気持ちに寄り添い、頑張った姿を沢山認めることを大切にしてきました。“次もやってみよう”と一歩踏み出す心の成長を感じた相撲月間でした。



5歳児クラス（くじら部屋）

くじら組は相手を指名して相撲をします。Aちゃんはいつも同じ相手を指名しています。毎回負けて悔しい思いをしながらも保育士が「どうしていつもBちゃんを指名するの」と聞くと「だってBちゃんはすごく強いから、Bちゃんに勝てたら横綱になれるでしょ」という返事が返ってきました。いつもは仲良く遊んでいる友達も一歩土俵の上に上がれば一瞬で目つきが変わり、互いに“勝ちたい”という強い気持ちを持った取り組み相手となります。“負けて悔しい”という気持ちだけでなく、“強い相手”だからこそ立ち向かう姿にたくましさや心の育ちを感じました。身体のぶつかり合いだけでなく、気持ちのぶつかり合いを通して心身共にますます強くなっているくじら部屋です。